**第170回ペン川柳六句月（踏む）**

**日時＝平成30年6月22日 (金)**

**今月の優秀互選句は六句となります。（\*印は今月の互選五句、\*は最優秀句）**

**1.「踏んじゃった我が家の地雷女房殿」だし**（大野）　→　**得点＝3点**

作者はいったい何をしでかしたんでしょう！　地雷のごとく恐ろしい奥様を怒らせてしまったと泣き言を吐いています。若い頃なら布団に入ってから宥めすかせてあげられたんだけど、とも囁いていました。

**2．「踏み込めばフェイクばっかしこれリアル」井波**（稲宮）　→　**得点＝0点**

　　元句の下五は字余りの**「**これ**真実」**でしたが添削されました。

**3．「場数踏み寝取った女房大はずれ」醉深**（平尾）　→　**得点＝0点**

元句の中七は**「娶った」**でしたが添削されました。作者の性格・人柄を考慮すれば**「寝取った」**に違いないとの満場一致の意見でした。

**4．「爺発車アクセル踏めばバックギア」晃二**（安藤）　→　**得点＝1点**

最近新聞紙上を賑わしたニュースに「老人の運転事故」があります。我がクラブの面々も運転にはくれぐれも「お気を付けあそばせ！」

**5．「六方を踏んで見栄切る薮にらみ」求々**（浜田）　→　**得点＝2点**

歌舞伎の**石川五右衛門**のように、右手と右足というように同じ方向の手足を　　 同時に動かして大げさに花道を歩く所作を「六法を踏む」という。その内容はわかりますが、この場合の川柳としては、それでどうしたの典型です。

**6．「麦を踏むごとく子供は叱るべし」明迷**（八木）　→　**得点＝0点**

教育者の作者は、普段から生徒の教育には「麦を踏むごとく実践しています。

**7．「川柳も出来の良いのは韻を踏む」損得**（細谷）　→　**得点＝0点**

高級な川柳は「韻」を踏まねばならぬというのが作者の考え方です。必ずしも作者自身がそのルール？に従ってきたわけではありません！

**\*8．「お百度を踏んだ女に今踏まれ」醉雅**（西川）　→　**得点＝5点**

今月の最優秀に輝いた作品です。作者の夫婦関係の現状を詠んでいるとい

う句の内容に対し、川柳士たちの同情票が入りました！（作者自身はこのコメントに猛反撃をしていますが！）

**9．「ステップを踏めず誘えぬ壁のシミ」晃二**（安藤）　→　**得点＝1点**

　　元句の下五は**「壁の花」**でしたが、作者自身が壁に張り付いている状況を想像して、「花」ではない**「シミ」**だろうとの強硬な意見により添削されました。　その意見には世話人も絶対的な賛意を表しました。

**10．**欠番

**11．「二の足を踏んだ結婚やっぱりな」明迷**（八木）　→　**得点＝0点**

二の足を踏んだのは作者の奥方でした。したがって**後悔して**いるのは作者　ではありません。奥様には当クラブから最大のご同情を申し上げる次第です。

**12．「二丁目のツケ踏み倒しカマ茹でに」火酒**（三春）　→　**得点＝1点**

普通は安酒場のツケを踏み倒してもカマ茹でにはなりませんが、五右衛門の心境ではありませんが、これまでにあちこちで度々「踏み倒してきた」作者は戦々恐々の今日この頃なんです。

**13．「前轍を踏んだ挙句に落ちこぼれ」醉雅**（西川）　→　**得点＝1点**

　　この場合の**「前轍」**とは、会社の先輩の会社人生の中身ですから、それを忠実に真似した作者のサラリーマン人生だったのです。結果、作者自身も落ちこぼれだったのです。

**14．「勇み足えらいこっちゃとたたら踏む」安兵衛**（山縣）　→　**得点＝3点**

　　勢い余って勇み足を踏むことをたたら踏むといいますから、この句は点数こそ入りましたが言葉がダブっているのは残念です。

**15．「天安門ファクト踏んづけ大国風」井波**（稲宮）　→　**得点＝0点**

　　ファクトの中身「天安門」が一寸古すぎる比喩でしたね。然しながら、香港での最近の言論弾圧的な中国政府の動きは天安門事件を想起させますよね。

**16．「ブレーキを踏み間違えて天国に」損得**（細谷）　→　**得点＝1点**

最近新聞紙上を賑わす高齢者ドライバーによる事故を詠みました。天国に行　くのは、踏み間違えた運転者ではなく歩行者だったりするのが悲しいですよね。世話人も運転は出来る限り避けるようにしています。

**17．**欠番

**18．「踏み石になった心算が大外れ」不言**（岩崎）　→　**得点＝2点**

「踏み石」の中身について具体性に欠けるので、「大外れ」との関係性が宙ぶ　らりん状態になっているのが残念です。

**19．「会社では踏んだり蹴ったり飛ばしたり」安兵衛**（山縣）　→**得点＝3点**

言葉使いが軽快でリズム感に富んでいる見事な川柳です。作者は第14句も　　　　　　　高得点を得ています。画家でもある作者は高揚した気分でアルル（南仏）に写生旅行に出発しました。

**20．「轍踏まず！相手の手出しで初勝利」求々**（浜田）　→**得点＝1点**

今開催されているサッカー（W杯）ロシア大会を詠んで立派な時事川柳にな　っています。それにしては上五の「轍踏まず！」の轍の意味は？　分からないのは世話人だけなのでしょうか？

**21．「怠け者日本三景踏みもせず」だし**（大野）　→　**得点＝1点**

　　この句もいくつかの解釈が？　例えば「石川五右衛門」等、説明不足ですね？

**22．「芭蕉でもネコの細道踏みはずす」火酒**（三春）　→　**得点＝0点**

　　猫好きの作者は、猫の道、近所の奥の細道に分け入ることがあるようです。

**23．「パリの街犬のフンふみ幻滅し」不言**（岩崎）　→　**得点＝0点**

　　パリの街には犬・猫の落とし物が沢山あると昔から言い古されていましたが、世話人が昨年行った際にはあまり目立ちませんでした。

**24．「お百度を踏んで探して今踏まれ」醉深**（平尾）　→　**得点＝0点**

　　第8句も「お百度」の句でしたので、点が入りませんでしたね。作者曰く、自分の女房のことを詠ったのではないと、点も入らなかったのに盛んに強調していました。

――――――――――――――――――――――――――――――――――

出席：**平尾**（酔深）、**松谷**（零門）、**稲宮**（井波）、**浜田**（我々好）、**三春**（火酒）、　　←　**5**人

欠席投句：**岩崎**（不言）、**安藤**（晃二）、**西川**（酔雅）、**山縣**（安兵衛）、**大野**（だし）、**細谷**（損得）、**八木**（明迷）　　←　**7**人

**次回は7月30日（月）、お題「海」**での勉強会です。